

中経連「キャリア教育共創プログラム」大学ニーズリスト(様式3)

NO	新規 継続 分類	2023年 度 該当No	前年の 講義提 供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
①学生のキャリア形成に資する経験・体験談										
2023-1	新規	—	—	不問	専門と専門以外の就職をした人たちの体験談	大学での学びが、専門科目に関係する仕事、またそうでない仕事において、どう生きるかを知る。	各々の進路選択の理由や大学での学びがそれぞれの仕事でどう生きているかを伝えていただき、質疑応答などもお願いしたい。	対面授業		専門外の就職をしたい学生が、大学の学びをおろそかにする傾向があると考え。また、専門から進路選択をしなければならないの思いが強いように感じる。専門だけでなく、進路には様々な選択肢があり、一見関係なさそうな仕事でも大学の学びが生きていることを伝えることで、学業意欲の喚起、自由な進路選択に繋がりたいと考える。
2023-2	新規	—	—	人事担当者	キャリア形成 学生に求めるもの／採用について	学生のキャリア観の醸成		①対面授業 ②対面授業	①250名 (総合政策学部) ②20名(ゼミ)	
2023-3	新規	—	—	マーケティング担当者、人事担当者	マーケティング戦略	企業のマーケティング戦略の実際について知ってもらう		対面授業	150名 (総合政策学部)	
2023-4	新規	—	—	情報関連	国際教育、業界研究	国際教育：海外で働いたり、海外と取引する場合などに対応できるように学生に国際的な視点を与える 業界研究：情報関係の業界について知る	3年前期の「キャリアゼミナール」	対面とオンラインの両方ともありえる	150名程度	
2023-5	新規	—	—	金融、各種メーカー、物流、流通小売、広告、旅行宿泊サービス、公務等	「〇〇〇業界を知る」	各企業による（業界・企業説明、職場見学、仕事体験やワーク等）	表面的にしか理解できていない業界や、知らない業界の内容をしっかりと学び、就職活動時の選択肢を広げることを目的とする。	オンデマンド (録画配信方式)	希望者視聴	
2023-6	継続	2022-1	—	製造業、情報通信業等の機械、電気、情報系技術者	大学院生を対象としたキャリア形成講座	今後のキャリアや、職業観についての意識を高める。	工学系大学院生の企業からのニーズ、社会で必要とされる大学院の専門性について	対面授業	未定(大学院生、大学院進学希望者)	
2023-7	継続	2022-5	有	金融、各種メーカー、物流、流通小売、広告、旅行宿泊サービス、公務等	業界別 職種研究セミナー	各企業による各種職の仕事内容説明	営業・総合職といった言葉ではなく、具体的な仕事内容を知る。また知らない仕事内容を知ること、興味の幅を広げ、職業選択時に選択肢を広げることを目的とする。	オンデマンド (録画配信方式)	希望者視聴	
2023-8	継続	2022-7	有	メーカー様中心にアジア・欧米など複数の国の異なる担当業務を担う多様な方を複数名希望したい(同一業務や国では内容が偏るため)	海外赴任経験者の体験談	①学生にグローバルな視点を身に付けさせること ②グローバルな働き方に興味を持たせること ③大学の授業の意味づけや学びへの意欲向上を図ることなど	講師自身のこれまでのキャリアと生きてきたこと、現地生活や失敗経験を含めた異文化経験をお話しいただく	対面授業。但し、現地駐在中の方との交流も可能であれば、オンラインを組み合わせたハイブリット授業も可能	約130名	VUCA時代で活躍するために、世界で生き抜く力と楽しく生きる力を養成して、社会へ輩出しなければならないと考えている。その一方で、留学することが目的となりがちな学生が一定数存在しており、Z世代は情報は多く・多方面から収集できるが、情報の精査や優先順位付けは十分ではない。この原因は自分で情報を組み合わせて考える力が必要であり、そのためにも多様な経験を生の声で学生に提供したい。また、大学入学後の学びへの意欲の停滞は非常にもったいなく、キャリア形成の機会提供に留まらず、低年次から学びの目的設定や意欲向上につながるきっかけ提供の機会としても活用したい。
2023-9	継続	2022-9	有	製造業、情報通信業などの機械、電気、情報系職種	キャリア形成講座	今後のキャリアや、職業観についての意識を高める。	企業に必要とされる人材とはどういった人材か、活躍できるフィールドはどのようところにあるのかなど、将来働くということがイメージできる講座が望ましいです。	対面授業	未定(全学年、自由参加を予定)	
2023-10	継続	2022-10	有	金融・保険業、不動産業、商社、製造業、インフラ、IT等 可能であれば女性	社会と業界を知り、将来のビジョンを描く	様々な業界の外部講師から、各業界の社会的役割、仕事内容とやりがい、仕事で必要とされる知識や能力、学生時代にしておくべきこと等を聞くことで、自分の将来ビジョンにつなげる。	・当該業界や企業が社会において果たす役割 ・仕事内容とやりがい ・仕事で必要とされる知識や能力	対面授業	約50名	正課として、1つの科目の枠内で1企業につき1回ないし2回(1回=90分)実施していただくことを希望する。 3年生対象の授業を中心に考えているが、1年生、2年生対象についてもお願いする場合がある。
2023-11	継続	2022-11	有	製造業、情報通信業等の機械、電気、情報系技術者	初年次導入教育 キャリア形成講座	1年次から今後のキャリアについての意識を高める	講師の方が企業で働いていて感じていること(良いこと、悪いこと、学生との違いなど)やご自身の大学生活を振り返り、社会人として働くうえで役に立っている経験、やっておけばよかったこと等、実体験を踏まえてお話しいただきたい。リアルなお話をさせていただくことで、キャリアビジョンを形成し、学生が大学4年間を目的、目標を持って過ごすきっかけとしたい。また、キャリア形成への漠然とした不安も取り除けるような、講義を望んでいる。	対面授業	約300名(1年次)	企業でのことはもちろん、プライベートや生活に関連したことも含めてお話を頂きたいと考えています。就職という観点のみに留まらず、今後の人生を考えるキャリア形成講座の実施を希望します。
2023-12	継続	2022-12	有	不問	社会で活躍するために	社会で活躍するためには、どのように学生時代を過ごすか。どのように目標設定したらよいかを理解し、実際にプランニングすることができる	講師自身や社内外で活躍する社会人を事例に、どのような学生時代を過ごしていたのか。そして、その経験がどのように社会で活かされているのかを学ぶ	どちらでも可	150名(2~3クラスにわかれる)	想定する科目:キャリア基礎 I (1年生/全学共通科目)

NO	新規継続分類	2023年度該当No	前年の講義提供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
2023-13	継続	2022-15	有	ものづくり企業(できれば若手、中堅社員)		企業のマーケティング戦略を考える講義であるが、受講者は3年生がメインであるため就職活動、社会人として働くことについての意識を持たせたい	ものづくり業界で働く私の経験談 ・どのような学生時代を過ごしてきたのか。 ・ものづくりおよび自社の魅力とは？ ・社会人として働くということとは？ ・ものづくり企業に求められる人材	対面授業	40名程度(3年生メイン)	2年生向けに開講されている「分析化学」の授業の中で、今学んでいることがどのような場面で使われているのかを伝えて頂き、学生の学習意欲を向上させたい。授業の進行上、7月の講演を希望します。
2023-14	継続	2022-16	有	業種不問、35歳前後の男女若手・中堅社員。	社会人に学ぶキャリアデザイン	適切な企業理解と職業観、勤労観、キャリア意識の醸成	講師自身のこれまでの「キャリア・就職・仕事」や「結婚・出産・育児」等について考えてきたことやその経験談、これから社会に巣立つ学生へのアドバイス等を講義いただければと存じます。	対面授業	名古屋校舎:180名 豊橋校舎:50名(両校舎とも大学2・3年生)	業種不問、35歳前後の男女若手・中堅社員。
2023-15	継続	2022-17	有	業種不問、短期大学部は女子のみであるため、女性講師を希望。	社会人に学ぶキャリアデザイン	適切な企業理解と職業観、勤労観、キャリア意識の醸成	講師自身のこれまでの「キャリア・就職・仕事」や「結婚・出産・育児」等について考えてきたことやその経験談、これから社会に巣立つ学生へのアドバイス等を講義いただければと存じます。	対面授業	豊橋校舎所属の短期大学部生1年生(女子学生のみ約50名)	業種不問、短期大学部は女子のみであるため、女性講師を希望。
2023-16	継続	2022-18	有	理系学生や院生を積極的に採用する業種、大学院修了であることが望ましい。	エンジニアの体験に基づくキャリアプランの描き方	学生にエンジニアのキャリアパスについて意識させ、大学院進学や有名企業への就職に興味を持たせる。	講師自身の経験に基づくキャリアプランの描き方を大学院進学、インターンシップから就職活動までを通して講義頂きたい。	オンライン授業、対面授業の順に希望	20名程度	
2023-17	継続	2022-19	有	「企業でのご経験」をお話いただける、若手、中堅、幹部の技術者、管理職、社内教育担当、その他。	上記5つの工学(13分野)の1つ(学生の所属する分野)について専門技術者としてのキャリアを考える。	次の分野における専門技術者として産業社会で求められる専門知識や技術開発の方法、キャリアの目標の立て方、卒業後の学習について学ぶ。 ・生命・応用化学(生命・物質化学分野、ソフトマテリアル分野、環境セラミックス分野)、 ・物理学(材料機能分野、応用物理分野)、 ・電気・機械工学(電気・電子分野、機械工学分野)、 ・情報工学(ネットワーク分野、知能情報分野、メディア情報分野)、 ・社会工学科(建築・デザイン分野、環境都市分野、経営工学分野)	ご経験をお話いただき、学生・教員等から質問をさせていただき、学生が自身のキャリアについて考える授業を実施する。たとえば、次に当てはまる方からテーマを決めてお話いただきたい。 ・専門家としてキャリアを積んできた技術者・研究者:専門技術を磨き、どのような技術開発・研究開発に携わってきたか、そこで必要な能力、チームワーク・リーダーシップの能力、必要な専門資格。 ・多様な分野を経験してきたもの:異なる分野で新たに仕事を進めていくことについての経験、乗り越えてきた困難、今後学生が考えておくべきこと。 ・専門技術者あるいは関連する職の育成のための社内教育に携わる専門家:教育の専門家として、学生時代に学ぶべきこと、生涯のキャリア育成に必要なこと、仕事をするうえで必要な能力。 ・入社後、数年の先輩世代の技術者で入社後の成長について語ることもできる者:学生時代と仕事をするようになってからの違い等、気づきを学生と共有。 ・女性技術者・女性管理職:女性の役割や女性としてのキャリア形成における困難な点、女性だからこそ伝えることのできる仕事・専門性の付け方。 ・海外経験が豊富で、多様な環境での仕事の仕方について語ることができるもの:文化・言語の異なる場所での仕事、多様な人々との仕事の仕方。 ・社内ベンチャーなどの経験者:新たな事業展開に必要な能力、そこでの経験。	対面講義が実施できない場合はオンライン講義での実施を希望します。	学部2年生、200名程度	本授業は、2年生後期のキャリア教育を目的とする「産業論」で、生命・応用化学科、物理工学科、電気・機械工学科、情報工学科、社会工学科の各学科のクラス毎に計15回実施し、各講師には原則1回(90分)の中でご登壇いただきます。90分の授業の中で、お話いただくだけでなく、学生が考える機会を与えていただけるよう、教員と授業内容を打ち合わせさせていただきます。固有のご経験をお話いただける方をお願いします。

②就職ガイダンス

2023-18	新規	2022-21	—	採用担当者もしくは、採用ご経験者	採用選考の際の評価のポイント・企業が求める人材像	学生に社会で求められる人材像を理解させる。	採用面接をはじめとする採用選考における評価のポイントをご教示いただきたい。	対面授業	30名前後	
2023-19	新規	—	—	金融、各種メーカー、物流、流通小売、広告、旅行宿泊サービス、公務等	「人事担当者による『企業が求めるコミュニケーション能力』」	業界・職種にこだわらず、コミュニケーション能力は必要であり、社会で必要とされるコミュニケーション能力とはどういったものかを、人事担当者より直接聞くことで理解する	各企業様 人事担当者による ・コミュニケーション能力とか ・活躍されている社員の特徴 ・将来的に求められる能力 ・どうすれば学生時代に身に付けられるか	オンデマンド(録画配信方式)	希望者視聴	
2023-20	継続	2022-22	有	金融、各種メーカー、物流、流通小売、広告、旅行宿泊サービス、公務等	「人事担当者による『企業が求める人材』」	業界・職種にこだわらず、企業が求める人材、企業で活躍している人材のポイントを、人事担当者より直接聞くことで理解する	各企業様 人事担当者による ・採用したい人物の評価ポイント ・活躍されている社員の特徴 ・将来的に求められる能力 ・どうすれば学生時代に身に付けられるか	オンデマンド(録画配信方式)	希望者視聴	

③社会・経済・業界の動向、時宜に沿ったテーマ

2023-21	継続	2022-41	無	シンクタンク等	世界のエネルギー動向	建築設備の基本設計を理解する	エネルギー需給バランスが変化し、この変化が世界経済を大きく揺るがしている。現在の世界のエネルギー動向について講じる。	対面授業	学部生 30名	
---------	----	---------	---	---------	------------	----------------	--	------	---------	--

NO	新規 継続 分類	2023年 度 該当No	前年の 講義提 供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
④企業実務(制度・財務・ビジネススキル等)										
2023-22	新規	—	—	公認心理師、精神保健福祉士、臨床心理士、産業カウンセラーなどの資格をお持ちの方	産業・企業カウンセリングの実際(仮)	企業や産業現場で、心理相談やストレスマネジメントがどのように行われているか学習する	企業紹介、相談室紹介、模擬事例、質疑応答	対面授業希望だが、オンラインでも可	30名前後	公認心理師、精神保健福祉士、臨床心理士、産業カウンセラーなどの資格をお持ちの方
2023-23	継続			文化の異なる人たちと一緒に働く経験があり、実体験とともに具体的なコミュニケーションスキルなどについてご教授いただける方。	異文化コミュニケーション	職場での多文化化が急速に進む中で、国籍や文化の異なる人たちが協働するのに必要な心構えやスキルを学ぶ。	秋学期(10月～1月末)期間中に1時間程度の講演・グループワークをしていただきたい。	対面授業希望だが、オンラインでも可	110名(教養教育の授業のため、全学部の学生が受講可能)	可能であれば、大学の教職員も、SD研修として受講させていただけると嬉しいです。
2023-24	継続			職場の人事制度や人材育成に関する立場や理念を説明できる方。	職場における人材育成	会社における実際の人事制度について、人事制度および人材育成の理念などについて学び、人事心理学の理解を深める。	秋学期(9月末～1月末 木曜日9:00～10:30)期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業	30名(人文社会学部心理教育学科3年生30人)	
2023-25	継続	2022-28	有	経営企画部門などにて、中期経営計画の策定や予算編成に関わっている方	経営計画の策定と予算編成に関わる仕事のやりがい	学生に管理会計の実践に対して興味を抱かせる。	・企業紹介 ・管理会計が経営にどのように役立っているのか、実務でのご経験にもとづいてお話を頂戴したい。	対面授業	約20～80名	経営のための会計について学ぶことの意義を、学生へのメッセージとして頂戴できればと思います。
2023-26	継続	2022-76	—	エンジニア	企業における情報系システムの開発について	企業における情報系システムの開発の様子を知ってもらい、大学において習得すべき知識・スキルを再確認する機会をつくる。	企業において情報系システムを開発する際の、組織体制や役割分担、マネジメント、設計・開発・テストの様子など、紹介していただく。	対面授業	約50名	情報系の先端的なシステム(例えばAIなど)に関する開発の事例があるとよい。また、この分野が今後どのように変わっていくか、企業側からの視点で講義いただきたい。
2023-27	継続	2022-29	無	不問	ひと、もの、かね、情報等、ものづくりにおける各種の管理(品質管理、生産管理、設備管理、在庫管理、原価管理、財務管理、人事管理、労務管理など)に関する実際の理解(ものづくりマネジメント)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	学部3年 50名程度	
2023-28	継続	2022-30	無	不問	創造的な問題解決過程の理解と応用(問題解決論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	学部3年 50名程度	
2023-29	継続	2022-31	有	不問	人事労務管理の要点理解(人事労務管理)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	学部3年 50名程度	
2023-30	継続	2022-32	無	不問	組織における集団・従業員の心理・行動理解(組織行動論・産業組織心理学)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	学部3年 50名程度	
2023-31	継続	2022-33	無	不問	社会システムあるいはその下位システム(ものづくり、経営に、産業)に関する理解とマネジメント技術(経営工学概論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	学部3年 50名程度	

NO	新規継続分類	2023年度該当No	前年の講義提供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑤技術開発の方法、専門知識										
2023-33	継続	2022-47	有	熱機器の研究・開発に携わる方(経験を語っていただく関係上、相当年数の就業実績は必要)	熱機器の開発に関する諸問題(話題提供)	熱機器の開発において現場での苦悩や工夫について情報共有いただき、学生に実際の開発でどのような基礎知識を活用するのかを効果的に伝える	B3開講科目「応用熱工学」での特別講義1コマ分を想定(テーマは自由)	対面授業	120~140程度(B3学年)	前半10単元分はオムニバス形式での座学(熱エネルギー利用、熱エネルギーへの変換、計測技術など)を提供し、後半の3~4単元分を外部講師による特別講義としており、毎年、企業あるいは大学より外部講師を招いて実施している。
2023-34	継続	2022-48	無	自動車、精密機器、半導体、医療機器	MEMSや医療機器の製品開発について	学生に対して、MEMSや医療機器開発における最先端方法を学んでもらう	①基礎研究以降の製品開発、②商品化、③シーズとマーケットのニーズをつなぐという大学では説明が難しい部分をご説明して頂けるとありがたい	対面授業	20-50名程度	大学では基礎的な研究面に強みがあり、基本的な原理を構築することが得意である。一方、昨今では、社会に新しい価値を提示し、新たな産業を創出することも、大学の役割として求められている。ここでは基礎研究以降の企業での製品開発と商品化、さらには技術シーズをマーケットのニーズとつなぐ部分を説明して頂くことで、大学においてイノベーションを起こすことが可能な人材を増やすことを狙いとしている。
2023-35	継続	2022-49	無		クラウドコンピューティング	実際のデータセンターの運用事例の話	クラウドコンピューティングの現場の話聞かせる	対面授業	20名	
2023-36	継続	2022-50	無	対個人もしくは対企業にネットワークサービスを提供している企業の方	ネットワーク、性能評価、待ち行列理論、トラフィック理論、ネットワーク運用、SLA	情報ネットワークの性能評価手法の基礎を学ぶ	ネットワークサービス提供者の立場で、性能をどう考え、どう運用管理しているか、実情を90分程度でお話しいただきたい	対面授業	博士前期課程30名程度	実際のネットワークサービス運用現場での性能評価/管理の実態を学生に伝えられる方をお願いしたい。また、顧客がどのような性能をネットワークに期待/要求してきていて、それにどう応えているか、といった話もありがたい。
2023-37	継続	2022-51	無	ハードウェア(プロセッサ)設計・開発	プロセッサ設計、システム設計	近代的プロセッサ設計方式の詳細について学ぶ	プロセッサ自体の設計開発、またはプロセッサ性能の活用(並列処理チューニング等)を踏まえたシステム設計開発に関する内容	対面授業	博士前期課程10名	
2023-38	継続	2022-52	無	真空関連メーカー	真空ポンプ、圧力計など、真空技術一般	真空技術について理解を深める	第1回 固体清浄表面の特性、第2~3回 流量とコンダクタンス、第4~5回 物理吸着と化学吸着、第6~7回 真空排気装置と真空計、第8回 期末試験	対面授業	博士前期課程80名	講義等の内容(プログラム)で、「第6~7回真空排気装置と真空計」の部分において、1回分の実践的な講義を企業の技術者の方をお願いしたい。
2023-39	継続	2022-53	無		レーザー特性の理解、レーザーの動作原理の理解、レーザーの制御方法の理解、レーザー応用技術の理解	レーザーの発振原理と特徴を理解し、先端計測技術並びに加工技術への応用に際して、どのように利用されているのかを理解し、説明できることを目的とする。	1 イントロダクション -産業におけるレーザー光の重要性- 2 レーザーの性質 3 レーザーの発振原理 4 レーザー媒質 5 光制御技術 6 レーザーの出力特性および評価技術 7 レーザー応用技術 8 最近の話題	対面授業	10-20名	レーザー加工、レーザー計測などのレーザー応用技術について、実際にこれらの技術を用いている技術者による実践的な講義(1-3回)を希望いたします。
2023-40	継続	2022-54	無	先進的なシステム開発に携わる方	自然言語処理、音声認識、話者認証、音声合成、音声強証、機械翻訳、テキスト解析等の音声・自然言語処理技術	人にやさしい情報社会を実現するための要素技術とその応用を知る	システムの構築例、運用例などをお話頂きたい。	対面授業	博士前期課程(1年生)20名あまり	
2023-41	継続	2022-55	有	建築設計、建築パース制作、写真編集、レイアウトデザイン	CAD・CG・図面制作・モデリング・写真などの編集技術	建築設計におけるコンピュータの利活用の技術を習得する	工学部社会工学科建築・デザイン分野の2年次において建築設計のコンピュータの利活用について講義・演習を行う	対面授業	学部生 70名	建築設計においては、年々、最新のソフトウェアの利活用、3Dプリンタやレーザーカッターなどの利活用が多様化してきている。建築情報技術では、実社会でのコンピュータを利活用した建築設計の技術を紹介いただける専門職の方に講義と演習をお願いできれば幸いです
2023-42	継続	2022-56	無	素材・電子機器・光学材料/機器・計測器・化学・食品などのものづくり企業で薄膜化技術・ナノテクノロジーに携わる研究者・技術者	材料の薄膜化、ナノ構造化によって産まれる新機能と関連プロセス技術	受講生の、物質低次元化から新奇機能が産まれる理由、その作製法と応用についての理解を深めること	①薄膜化・ナノテクノロジーの概要 ②物質の低次元化で発現する現象、そのアドバンテージ ③薄膜化・ナノ構造化技術 ④最先端応用技術の紹介と将来展望	対面授業	博士前期課程約20名	薄膜化・ナノテクノロジーの応用事例を受講生に理解してもらいたく、また進路検討の一助にもなればうれしく考えております。
2023-43	継続	2022-57	有	情報セキュリティに関わるシステムの企画開発経験のある方	暗号理論、暗号応用システム、ブロックチェーン、暗号化データベース、電子認証方式、認証アルゴリズム、バイオメトリック	安全なCyber Physical System構築のための要素技術とその応用を知る	セキュリティ技術の開発例、システムの構築例、運用例などをお話頂きたい。	対面授業	博士前期課程(1年生)30名余り	
2023-44	継続	2022-58	無	固体酸化物形燃料電池の材料開発に実際に携わっている方	固体酸化物形燃料電池	新エネルギー材料のしくみを理解するとともにその応用例を知る	最新の固体酸化物形燃料電池の構成、それに用いている材料の物性、現状の問題点、その課題克服のためのアプローチ法等についてお話を頂きたい。	対面授業	博士前期課程(1年生)20名余り	

NO	新規継続分類	2023年度該当No	前年の講義提供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
2023-45	継続	2022-59	無	電気主任技術者の資格取得に必要な科目。	電気設計製図	電気機器(産業用モータ/発電機)の設計を通じて、電気回路、電磁気、材料力学、伝熱、流体、機械製図などの知識の修得とその応用を学ぶ。	1週目 1.総説 2週目 2.規格・仕様書 3週目 3.電気材料 4週目 4.温度上昇 5週目 5.冷却方式 6週目 6.保護方式 7週目 7.誘導起電 8週目 <中間試験> 9週目 8.巻線 10週目 9.漏れリアクタンス 11週目 10.磁気回路 12週目 11.損失および効率 13週目 12.使用および定格 14週目 13.寸法の決定 15週目 14.機械的設計 16週目 <定期試験>		10名程度	教科書(例)「電機設計概論 4版改訂」 著者名 電気学会 出版社 オーム社
2023-46	継続	2022-60	無	電気主任技術者の資格取得に必要な科目。	制御工学	フィードバック制御系の基礎事項を学習した後に、システムの時間特性、制御系の設計法を習得し、さらに現代制御理論の基本的な事項を学ぶ。	1週目 自動制御・ブロック線図 2週目 フィードバック制御系の基礎 3,4週目 伝達関数と基本要素 5週目 時間応答 6週目 周波数応答 7,8週目 安定性 9,10週目 フィードバック制御の特性(過渡特性と定常特性) 11,12週目 周波数領域での制御系の設計 13週目 システムの状態空間表現 14週目 可制御性と可観測性 15週目 時間領域での制御系設計 16週目 期末試験		10名程度	
2023-47	継続	2022-61	無	電気主任技術者の資格取得に必要な科目。	電気機械工学1	1)電気機器の電磁誘導に基づく電気エネルギーと機械エネルギーとの変換について学ぶ。 2)企業の研究開発事例について学ぶ。	第 1-12週: 1 電気機器(種類)、2 電磁エネルギー変換(磁気エネルギーとインダクタンス)、3 電磁エネルギー変換(交番磁界と回転磁界)、4 直流電動機(構造と原理)、5 直流電動機(特性について)、6 変圧器(構造と原理)、7 変圧器(特性について) 8 誘導電動機(構造と原理)、9 誘導電動機(特性について)、10 同期電動機(構造と原理)、11 同期電動機(特性について)、12 電気機器の歴史の変遷 第13-15週: 企業の電気機器の研究開発事例について実用的観点から学ぶ。 企業が直面する知的財産を踏まえた研究開発について学ぶ		10名程度	
2023-48	継続	2022-62	無	電気主任技術者の資格取得に必要な科目。	電気機械工学2	パワー半導体デバイスを用いたスイッチングにより電力変換・制御を行う技術であるパワーエレクトロニクスを基礎を理解することを目標とする。まず、パワー半導体デバイスの種類とそれらの基礎特性を学ぶ。次に、サイリスタコンバータ、DC-DCコンバータおよびインバータ等の基本的な電力変換回路の構成とスイッチングの制御手法について学ぶ。	1週目 パワーエレクトロニクス概論 2週目 ひずみ波形の電圧、電流、電力の取り扱い 3週目 パワー半導体デバイスの基礎特性(1)(ダイオード、サイリスタ、GTO) 4週目 パワー半導体デバイスの基礎特性(2)(トランジスタ、パワーMOSFET、IGBT) 5週目 スwitchングによる電力変換 6週目 スwitchングデバイスのオンオフと損失 7週目 単相ダイオードコンバータの原理と特性 8週目 中間試験 9週目 単相サイリスタコンバータの原理と特性 10週目 三相サイリスタコンバータの原理と特性 11週目 DC-DCコンバータの原理と特性 I (直流チョッパ) 12週目 DC-DCコンバータの原理と特性 II (スイッチングレギュレータ) 13週目 単相インバータの原理と特性 14週目 三相インバータの原理と特性 15週目 全体まとめ 16週目 期末試験		20名程度	教科書(例)「新インターユニバーシティ パワーエレクトロニクス」ISBN 978-4-274-20627-6 著者名 堀 孝正 出版社 オーム社 出版年 2008

⑥課題解決型講義(PBL)

2023-49	新規	—	—	指定なし	新商品開発におけるプロジェクトの取り組み方	企業で実際に「チーム」として、どのように業務が進められていくのかイメージをもってもらう。	部署や職種の異なる社員のグループに、学生も参加し、課題解決ワークに取り組み。出来れば、単発の講義ではなく3回1クールなどとし、プロセスも体験してもらう。	対面授業	文理問わず、全学部対象とする	
2023-50	継続	2022-77	無	業種、属性など特に指定はありません。BtoBでもBtoCでもOKです。	科目名「キャリア実践」 当該企業の使命、業界の状況や取り巻く社会情勢などに触れながら、企業としての課題や重視する取り組みについてお話いただく。	産学協同授業として、1、2年生を対象に、企業が取り組む「リアルな課題」を学生に提示して「社員」という意識で取り組ませる。授業を通じて社会に出る上で必要な主体性、知識、能力、論理的思考、コミュニケーション能力を鍛える。	3回ご出講いただきたく存じます。1回目は講義(会社の紹介、使命、業界を取り巻く状況、社会情勢、現在の課題、学生たちへの課題提示等)。2回目と3回目は、課題に対する学生たちのプレゼン、その評価、指導をお願いします。	対面授業	45名程度。	できれば1社2名の講師陣でお願いします。
2023-51	継続	—	無	商社、製造業(海外と強い係りのある企業様であれば、さらに助かります。)	基礎演習 I Future Skills Project ～失敗(時々成功)体験から始める人材育成～	企業様から課せられた課題への取り組みを通じて、「答えのない問い」に臨み、失敗(時には成功)を体験しながら、学生が「自分に足りないもの」を見つけ、自ら行動を起こす「チャレンジ精神」や「主体的に動く力」を身につけていくことを本講座の目的としています。	企業担当者様には合計3回授業にご参加いただけます。 1回目:企業担当者様による企業紹介および課題説明 2回目:学生による第一次提案 3回目:学生による最終提案 ・企業担当者様から課せられた課題に対して、その解決策を学生がグループで探ります。 ・第一次提案発表・最終提案発表後、企業担当者様よりご評価いただきます。※クラス/講座全体の運営は本学専任教員が行います。	対面授業	対象学生:外国語学部 1年生(前期):約25名(4~6名程度のグループで課題に取り組む)	

NO	新規継続分類	2023年度該当No	前年の講義提供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑦会社・工場見学										
2023-52	新規	—	—	社会実装に向けての人工光合成技術の現在	社会実装に向けての人工光合成技術の現在	近年、静岡県内には植物工場が多く稼働してきている。植物工場における栽培技術や光や温度・空調調節のためのエネルギー管理などについて紹介をお願いしたい。理学研究が社会で役立っている場を学生たちが知る機会を持てたらと思う。	人工光合成技術の基礎から、社会実装に向けての問題点、それらを克服した事例、これからの研究課題を講義形式でご紹介する。	対面授業	約30名程度	人工光合成に関わっている企業の担当者。バイオマス発電や二酸化炭素回収・貯留技術、ブルーカーボンへの取り組みなど、生物系と関連するクリーンエネルギー技術に関与される企業も可。この場合は講義のテーマを若干変更する。
2023-53	継続	2022-66	—		新エネルギー工学	我々が必要とするエネルギー種の理解のもと、カーボンニュートラル社会の実現に向け、多様な新エネルギー源とその利用方法や問題点について学ぶ。再生可能エネルギー、バイオマス、新燃料、水素などの新エネルギー等を利用した電気エネルギーや熱エネルギーの創生、貯蔵や有効利用システムについて学ぶ。	1. 新エネルギーの概要 2. 再生可能エネルギーの現状 3. 需要家における再生可能エネルギー等の最適利用 4. 再生可能エネルギー等の系統連系における技術的要件 5. 都市ガスおよび熱エネルギー利用技術 6. 水素エネルギーと燃料電池技術 7. 新エネルギーとスマートグリッド技術(予測、系統制御) <特にここを希望> 8. 総括	対面授業	50名程度	
2023-54	継続	2022-67	無	輸送機械工業(・可能であれば講師は文系出身の方)	「自動車産業、業界の動向」(「社会フィールドワーク」における1講義として)	・日本の自動車産業がどのような様相を呈しているのかを概観する。・文系学生はモノづくりを売上高など業績で計る傾向にあるが、その業績が当該企業のどのような取り組みによるものなのかを可視化して頂き、受講者の理解も深める。また、これらの取り組みを担うは、技術系人材だけではなく文系人材であることも理解させる。	・企業紹介 ・日本の自動車産業について(世界の動向も踏まえて頂けると一層、ありがたいです)	対面授業	約20名	・大学教員による一方的な講義から自動車産業の概要を知るだけでなく、実際に産業に携わっておられる企業の「生の声」を頂きたいと希望します。 ・自動車産業だけではなく、CASEやMaaSといった新しい動き(モビリティ産業)の話に触れて頂いても結構です(ありがたいです)。
2023-55	継続	2022-68	無	輸送機械工業	・企業紹介、自動車産業における同社の位置付けについて ・工場見学(「社会フィールドワーク」における講義として)	・自動車産業が多層なプレイヤー企業から織りなる産業であることを理解する ・受講者は文系学生だが、製造業企業でも文系出身者が活躍する場が多くあることを実感する	・企業紹介 ・工場見学	対面授業	約20名	輸送機械工業、なかでも自動車産業は日本経済の屋台骨であることは自明ですが、それが何層にも連なるサプライヤーからなるモノづくりで成り立っていることを、学生はさほど理解できていません。主要プレイヤーは完成車企業だけではなく、部品を開発、生産するサプライヤーも重要な存在であることを理解して欲しいと考えます。
2023-56	継続	2022-69	有	地域金融機関	「中小企業と金融」(「中小企業政策論」における1講義として)	・中小企業の活力を向上する担い手として地域金融機関の存在がある。「政策」は行政が講じる支援がメインだが、金融機関など多くのサポートがあり、中小企業経営が成り立っていることの理解を深める。・将来、金融機関を志す受講生に、地元中小企業とのかかわり方の一例をお伝え頂く	・地域金融機関による中小企業支援について	対面授業	約200名	中小企業支援は数多ございますが、昨今では金融機関による中小企業支援にも注目が集まります。特に地域産業と中小企業という枠組みにおいても、地域金融機関が果たす役割は大きく、その地域や産業集積に見合ったプログラムが展開されています。プログラムでは、実際に中小企業支援に携わる方から、「中小企業支援が何につながるのか」について強調頂きますと幸いです。
2023-57	継続	2022-70	無	輸送機械工業、情報サービス業、通信業、電気機械工業、その他製造業	・企業紹介、自動車産業における同社の位置付けについて ・同社とCASE、MaaSの関わり(新たなモビリティ幕開け期における同社の役割) ・(なされていれば)実証実験の場の見学(「専門ゼミナール」におけるゼミ活動内にて(対象年次:2、3年生)	・新たなモビリティ時代では、従来の自動車技術だけではなく、電気電子産業、情報通信業など新たな分野からの参入が期待されることを、講師の話から理解する ・学生の技術理解を深めさせることを重視するのではなく、今後の産業が多様な業種で構成される「魅力」に気付き、文系学生が今後の各種産業においてどのように活躍できるのか、それを考えるきっかけを頂きたい	・企業紹介 ・CASE、MaaSにおける同社の取り組み	対面授業	約20名	CASE、MaaS時代においては、従来の自動車産業技術のみならず、電気電子技術(半導体技術)、情報通信技術など異分野技術が不可欠となります。自動車産業からモビリティ産業への変革期において、新たなプレイヤーがどのような未来を描こうとしているのか、講師企業の話から学生が今後のモビリティ産業、市場へのイメージを膨らませるようなきっかけづくりをお願いしたく存じます。
2023-58	継続	2022-72	有	業種不問・短大卒業等の正社員が活躍している企業や職場	地元企業・工場見学 ～仕事現場に学ぶ～	仕事の現場を実際に見学することで、学生の就業意識を高める。	企業紹介、職場(会社・工場等)見学、社員や卒業生との懇談、質疑応答など	対面授業	豊橋校舎所属の短期大学部生1年生(女子学生のみ約30名)	
2023-59	継続	2022-73	有	家電リサイクル中間処理の実務に携わっている経験豊富な方	家電リサイクル中間処理工場の見学・解説・質疑	3年生後期配当科目「資源循環工学」の中の、「家電リサイクル法」の回において、実際に中間処理工場を見学し、専門技術者の説明を聴くことで理解を深め、環境分野の技術者としての意識を向上させる。	家電リサイクル法の対象となっている4品目の中間処理工程を実際に見学し、最先端のリサイクル技術を学ぶとともに、リサイクルシステムが成立するための条件等について自ら考える。	対面授業	約30名	学生にとってわかりやすい授業を実施するには、具体的な事例を挙げて説明することが効果的である。3年生後期配当科目の「資源循環工学」は、大別すると「廃棄物処理(リサイクル)」と「水処理」に内容が分かれている。各々理論的・法的解説を行うとともに、現代の処理技術について説明している。処理技術については、写真や動画などを受講生に見せて、よりわかりやすい授業を心がけている。しかし、講義室内で実施する授業には限界がある。実際に処理工場を見学し技術を体感することができれば、理解が深まり、資源を循環利用することの重要性についてより深く実感することが期待できる。その経験は学生の「ゴミ」や「排水」に対する考え方に大きな影響を与えられるだろう。しかし、残念ながら90分授業1回のみであるため、現実にはその時間内で見学会を開催するためには、大学近辺での見学に限られる。幸い、大同大学の近くには様々なリサイクル工場が操業されているため、その工場を見学させていただくことができれば、時間的制約もクリアすることができる。
2023-60	継続	2022-74	有	製造業	生産ライン見学・原価計算(原価管理)担当者との懇談	コストマネジメントへの取り組みについて知ること。	・企業紹介 ・生産ライン見学 ・社員(原価計算・原価管理の担当者)との懇談 ・質疑	生産ラインの見学と対面による懇談	20~50名程度	生産ラインを見学したのちに、原価をコントロールして利益を導くために、どのような取り組みをされているのかについてお話を頂戴したい。
2023-61	継続	2022-75	無	製造業(特に指定はないが、品質管理など化学の技術が活かされている現場)		大学で学ぶ化学が実際の現場でどのように活かされているかを知る	・企業紹介 ・工場見学 ・社員との懇談 ・質疑	対面授業	20名程度	

NO	新規 継続 分類	2023年 度 該当No	前年の 講義提 供有無	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑧インターンシップ、企業内実習の受け入れ										
2023-62	新規	—	—	広告会社	広告会社の見学、プログラムへの参加	広告制作のプロセスや実際の様子についての理解を深める	広告会社へのインターンシップ	対面	最大で20名程度	キャリア関連科目での実施を想定している。 人数制限がある場合は、希望者のみでの実施でもかまわない。 実施時期等の条件を相談させていただき、授業との兼ね合い等により調整が難しい場合は実施を見送らせていただく場合があります。
2023-63	継続	2022-81	無		博士後期課程実務訓練	大学院博士前期課程、後期課程で身につけた研究能力を、企業、研究機関などで日常行われている研究、開発、設計などの実務を通して実践することにより、企業等での問題把握方法、解決策の選択やアプローチの実際を知る。訓練指導者あるいは担当者との密接な議論と実践を通じて、将来指導的技術者となるために必要な人間性の陶冶を図るとともに、実践的な技術感覚を磨く。 博士号取得者は増加していますが、企業への就職は必ずしも順調とは言えません。企業のニーズと博士号取得者のシーズあるいは方向性の相違が問題視されています。そこで、博士取得者が社会のニーズに合致し社会に貢献できるよう、博士後期課程の学生を企業における実務訓練に派遣します。	基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。			・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練や博士後期課程実務訓練は、長期かつ高度なインターンシップ活動を可能にする枠組みである。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。
2023-64	継続	2022-82	無		課題解決型実務訓練(海外)	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。 学生の海外就労を推進するため、特に【企業の海外拠点】における長期インターンシップ先を求めています。海外での長期実務経験を経た学生は、社会に出た後も海外勤務などの即戦力として活躍が見込まれます。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1～2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 「課題解決型実務訓練」では、1～2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・技術者を目指す学生(工学部)に実際の現場を見せたい。 ・できれば働いている社員の方と意見交換する時間を設けてもらい、最新技術の動向、研究に取り組む姿勢などについて学ばせたい。
2023-65	継続	2022-83	無		課題解決型実務訓練	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1～2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 「課題解決型実務訓練」では、1～2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練は、実務訓練をさらに発展させ、長期かつ高度な活動を可能にする枠組みである。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・派遣先募集は7～9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。
2023-66	継続	2022-84	無		実務訓練	企業・官公庁等で実務に従事し ・業務遂行のためのコミュニケーション ・他の科目で習得した知識の活用法 ・業務に関する実践的思考力(スケジュール計画と時間管理、判断力、他)等を習得するとともに、それらの重要性を認識する。	本学の大学4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1～2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 本学の実務訓練の特徴は以下の通りである。 ・卒業研究まで終わった4年生、すなわち新卒者相当の学生が履修する。 ・就労体験を目的とした3日程度のインターンシップと異なり、7週間の実務訓練では社員の指導のもと実務の一端を経験し担当することを目的とする。 ・実務訓練を履修することにより、自らの能力・経験と希望する職務とのマッチングあるいはギャップを体得することができる。それを元に大学院進学後の研究・学習活動を充実させ、さらに就職活動においても自信をもって職種・職業を選ぶことができる。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、上記の方法で実務訓練を実施してきている。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・派遣先募集は7～9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。
⑨外国人材の活躍支援										
2023-67	継続	2022-85	無	外国人の採用を積極的に行っている企業(オフィスワーク中心)で、採用・人材に対する立場や理念を説明できる方。CSRに関わる部署の方が望ましい。	職場における多文化共生	外国人の採用を積極的に行っている企業(オフィスワーク中心)において、採用・人材に対しどのような立場や理念を持っているか、国籍や文化の異なる社員同士と一緒に働く上で気を使っている点やその工夫などをお話いただき、身近な多文化共生について学び、考えるきっかけを与える。	春学期(4月初～7月末 金曜日9:00～10:30)期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業希望だが、オンラインでも可	100人 (人文社会学部2年生80人、3～4年生20人)	
2023-68	継続	2022-86	有	英語でご対応頂けると、留学生の参加者が増える(難しい場合は、日本語でも構いません)。	社会人と学生が連携した課題解決学習	社会人 & 学生の交流会(ワークショップ)	ダイバーシティ化を推進する企業様の社員の方々に本学までお越し頂き(或いは本学学生が企業様を訪問させて頂き)、学生とともに企業様が直面していらっしゃるビジネス上の課題を共に考えるワークショップの機会を作りたく思います。	オンライン授業、対面授業が可能な状況になれば対面授業	約25名～50名	英語でこのようなことを対応頂けると、留学生の参加者が増えます(難しい場合は、日本語でも構いません)。
2023-69	継続	2022-87	無		留学生インターンシップ	留学生に特化したインターンシップの実施	留学生を対象としたインターンシップの機会を頂ければ幸いです。本学の留学生は、日本語検定能力試験2級以上は保有しており、日本語でのコミュニケーションは概ね慣れています。ただ、就職を検討する際に、どうしても就業経験の乏しさから、「働く」ことを具体的にイメージできない傾向が強く、是非多くの中部圏企業様より2週間程度(願わくば1ヶ月以上)のインターンシップの機会を頂きたい。	対面	※対象学生(総数)は30名～80名程度	1日のみ実施するインターンシップが最近増えておりますが、留学生には企業活動や「働く」ことへの理解を深めるには時間が足りないようです。そのため、長期でのインターンシップの機会を、多くの企業様より頂戴できれば有難く思います。